



プレクルーズトレーニング開催報告書

海洋研究開発機構 地球深部探査センター
企画調整室/J-DESC サポート 御中

提出年月日：平成26年2月19日

氏名：谷 健一郎

所属（職名）：海洋研究開発機構・地球内部ダイナミクス領域（研究員）

乗船航海名	Expedition 351
出張期間（移動を含む）	平成26年2月17日 ～ 平成26年2月18日
実施場所	石川四高記念文化交流館
<u>実施による成果と今後の計画（400字以上）</u> プレクルーズトレーニングに参加し、「Crustal structures and tectonic development of the Proto-Philippine Sea Plate: Constraints to understand the origin of ASB」というタイトルで古フィリピン海プレートの地殻構造についての口頭発表を行い、他の乗船予定研究者と意見交換を行った。	
備考	



プレクルーズトレーニング開催報告書

海洋研究開発機構 地球深部探査センター
企画調整室/J-DESC サポート 御中

提出年月日：平成 26 年 3 月 4 日

氏名：浜田盛久

所属（職名）：海洋研究開発機構・地球内部ダイナミクス領域・研究員

乗船航海名	IODP351 航海
出張期間（移動を含む）	平成 26 年 2 月 17 日 ～ 平成 26 年 2 月 18 日
実施場所	石川四高記念文化交流館（金沢市）
実施による成果と今後の計画（400 字以上）	
<p>【実施による成果】 私が乗船する IODP351 航海は、始新世から中新世にかけての時期における伊豆火山弧（九州パラオ海嶺）の火山活動史の理解を目指して、奄美三角海盆を掘削する。今回のトレーニングにおいて、私は、回収コア試料中のガラス片、メルト包有物、無水鉱物（特に斜長石）に含まれる水をはじめとする揮発性成分を系統的に分析することにより、揮発性成分の観点から火山活動史を明らかにしたいという問題意識を講演した。講演に対する質疑と応答を通じて、自分の研究計画を改善するヒントが得られた。また、私の航海の前後の航海（IODP350 航海と IODP 352 航海）において、私と類似した問題意識を持って乗船する若手研究者がいることが分かり、彼らと共同研究することにより相乗効果を上げる方向性も見えた。2 日間のトレーニングを通じて、3 航海に乗船するそれぞれの研究者がこれまで取り組んできた伊豆火山弧の発達史に関する研究成果のエッセンスを掴むことができ、航海に参加する自分なりの意義づけを深めることができた。</p> <p>【今後の計画】 351 航海を通じて回収されるテフラならびに火山砕屑性堆積物のコア試料中に含まれるガラス片、メルト包有物、無水鉱物（特に斜長石）に含まれる水をはじめとする揮発性成分を、コアの最上部から最下部まで系統的に分析することにより、揮発性成分の観点から伊豆弧の火山活動史を解明したい。併せて、コアの斜長石のストロンチウム同位体比を分析することにより、試料が初期の伊豆弧の火山活動に由来するのか、他の島弧に由来するのかについても検討する予定である。</p>	
備考	



プレクルーズトレーニング開催報告書

海洋研究開発機構 地球深部探査センター
企画調整室/J-DESC サポート 御中

提出年月日： 平成 26 年 2 月 19 日

氏名：石塚 治

所属（職名）：産業技術総合研究所 主任研究員

乗船航海名	Exp. 351
出張期間（移動を含む）	平成 26 年 2 月 17 日 ～ 平成 26 年 2 月 18 日
実施場所	石川四高記念文化交流館
<u>実施による成果と今後の計画（400字以上）</u> 2014 年の IBM 掘削の三航海（Exp. 350 (Izu-Bonin-Mariana Reararc), Exp. 351 (Izu-Bonin-Mariana arc origins), Exp. 352 (Izu-Bonin-Mariana Forearc)の乗船研究者が一同に会し、プロジェクト IBM による島弧の発達と大陸地殻の成因の解明に向け、ブレインストーミングを行った。掘削コアを用いた個別の研究のアイデアおよび共同研究の新しい可能性を探った。共同主席として乗船する Exp. 351 に関しては、自分が航海の目的、掘削概要を説明したのち、3名の乗船予定者が研究発表を行った。草野有紀氏が、“Evolution processes of a hot subduction zone and the arc magma”、谷健一郎氏が、“Crustal structures and tectonic development of the Proto-Philippine Sea Plate: Constraints to understand the origin of ASB”、浜田盛久氏が“Toward understanding of volatile history of early Izu arc volcanism inferred from volatiles in melt inclusions and crystals in turbidites”と題する発表を行い、各自の航海での科学的興味、目標を発表した。航海に向け、各自の目標を共有できたことは大変有意義だった。	
備考	